

233) 愛し合いたい

あの日わたしが愛した人は	父親みたいな先生だった
母の手ひとつで育ったわたし	父の ^{ぬく} 温もり探していたの
傷つきやすい時を刻んで	しだいしだいに大人になった
そうして今はあなたの胸で	子供のように甘えるわたし
愛する人はいつも年上	父親みたいこうんと年上
いつかは覚める愛かも知れない	いつかは覚める夢かも知れない
それでもいいのこの瞬間を	ただひたすらに愛し合えたら
あなただったら捨てられてもいい	あなただったら死んでもいいの
まっ赤に燃えた愛の炎を	誰も消すことができやしないわ
空の青さを焦がすぐらいに	燃えて燃えてまっ赤に燃えて
わたしの生命燃えつきるまで	あなたの腕に抱かれていたい
もう惑わないあなたの胸で	しびれるくらい愛されたいの